

スポーツの見方・ 楽しみ方

5/26[±] ~ 6/16[±]

14:00-15:30 (90分) 全4回

慶應義塾大学日吉キャンパス
独立館 DB203教室

募集要項

定員：300名

受付締切：各回1週間前まで

受講料：無料

申込方法：ホームページ

(<http://www.hc.keio.ac.jp/ja/event/201205/keio-yomiuri2012.html>)より必要事項をご記入の上、お申し込みください。申し込みフォームをご利用できない場合、氏名(フリガナ)・住所・電話番号・メールアドレス、参加希望講座日を明記の上、e-mail、FAX、はがきにてお申し込みください。

問い合わせ先

〒223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1

慶應義塾大学日吉キャンパス 運営サービス担当内 「慶應義塾大学・読売新聞市民講座」事務局

E-mail: keio-yomiuri2011@adst.keio.ac.jp Tel.045-566-1000 Fax.045-566-1002

講座スケジュール(全4回)

第1回 5/26[±]

「スポーツ文化、再発見の旅」

村山 光義 (体育研究所・教授)

第2回 6/2[±]

「武道の心・技・体

～剣道における伝統の技術を見る」

吉田 泰将 (体育研究所・准教授)

第3回 6/9[±]

「テニスをもっと楽しもう」

村松 憲 (体育研究所・准教授)

第4回 6/16[±]

「自然科学の側面から見た

実践的アンチエイジング

～人はいつまで走れるか?」

小瀬村 誠治 (法学部・教授)

コーディネーター 佐々木 玲子

(体育研究所・教授)



主催：慶應義塾大学

共催：読売新聞横浜支局



5/26 (土) 「スポーツ文化、再発見の旅」

現代の「スポーツ」というものは、金メダルを目指す競技スポーツからレクリエーションとして楽しめる「遊び」要素の強い身体活動まで、多様な広がりを持ちます。今回はこのスポーツを楽しむためのヒントとして、スポーツ文化を解説します。例えば、スポーツ文化の歴史や近況を知れば、それが日常生活の中に活力をもたらす重要なスパイスであることに気づくでしょう。そして、世界のユニークなスポーツ、昔流行したスポーツ、新しく生まれたスポーツなど、多様なスポーツの今を知ることで、忘れていた遊び心が呼び起されることでしょう。また、トップアスリートの技術や戦術にはどんな秘密があるのか、その一端を知ることでスポーツの見方が変化するでしょう。オリンピックに関する話題も交えて紹介します。

村山 光義 (むらやま みつよし) 体育研究所 教授

1989年 順天堂大学 体育学部卒業

1991年 順天堂大学大学院 体育学研究科 スポーツ医学専攻 修了

2005年 順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科博士課程修了(博士(スポーツ健康科学))、公益社団法人全国大学体育連合理事

専門:運動生理学、バイオメカニクス

6/9 (土) 「テニスをもっと楽しもう」

「レジャー白書」によると、1993年には1300万人を超えていたテニス人口がその後減少の一途をたどり、2007年には570万人まで落ち込んでしまいました。その後回復し、2010年には750万人となっているものの、以前と比べると控えめな状態が続いています。ただし世界ランキング16位を記録した錦織選手の活躍もあり、テニスに興味を持つ人が増える可能性も大いにありそうです。今回は、多くの映像を見ながら技術について分析したり、戦術について考えたり、ボールの回転に注目したりしながら、テニスのプレーや観戦が更に楽しくなるようにお手伝いできれば、と考えています。他のスポーツと共通する話も多いので、テニス以外のスポーツに興味をお持ちの方にもお越しいただければ幸いです。

村松 憲 (むらまつ ただし) 体育研究所 准教授

専門領域:テニス指導研究・バイオメカニクス

研究紹介:テニス日本代表チームの映像・戦術サポート。高速度カメラを用いた、世界トップレベルの選手のテニスボール回転量についての研究。

その他:1998年全日本テニス選手権本戦出場、2004年全日本ベテランランキング1位、2008年全日本グラスコートベテラン選手権優勝。日本テニス協会、医学科学委員、スポーツ科学委員、ナショナルチームテクニカルサポートスタッフを歴任。

6/2 (土) 「武道の心・技・体 ～剣道における伝統の技術を見る」

「11,000」という数は、全国の中学校数を表しています。平成24年4月から、その中学校で武道の授業が必修となりました。その授業で中学生に何を教え、何を伝えるのでしょうか?武道が共通して持ち合わせているものには「伝統的な動きと考え方」があります。その中には「礼法」や「心・技・体の修練」も含まれています。今回は「剣道」における伝統の技術を様々な角度から紹介し、メディアで「剣道」が放映される際に、興味を持ってチャンネルを合わせていただけるよう、工夫してみたいと思います。なぜ、「剣道」がオリンピック種目に入っていないのか?についても、共に考えてみましょう。

吉田 泰将 (よしだ やすまさ) 体育研究所 准教授

1985年筑波大学大学院体育研究科コーチ学専攻修了。体育学修士。

1985年神奈川県立森村学園中・高等部常勤講師。筑波大学体育科学系準研究員・文部技官(1987年)、慶應義塾大学体育研究所助手(1990年)、を経て2005年から現職。専攻は体育方法学(剣道方法論)・コーチ学(剣道コーチ学)。全日本剣道連盟評議員・社会体育指導員委員会委員、全日本学校剣道連盟常務理事(事務局長)、慶應義塾体育会剣道部副師範。剣道教士八段。

6/16 (土) 「自然科学の側面から見た実践的 アンチエイジング～人はいつまで走れるか?」

人は、いかに若さを保ち元気で年を重ねることができるのか。超高齢化社会が目前に迫る中、その対策は最重要課題だと考えています。究極的には血管の若さを保ち、付随して筋肉の若さ(柔軟性と強さ)を保つ努力をすることです。

筋肉の若さ、その柔軟性と強さについて自然科学の側面から考察するとともに、演者自らを実験台として独自の方法によりアンチエイジングに取り組み、脚力や体幹強化の達成度の指標として陸上競技、特にスプリント競技である100m走および200m走のタイムの向上という形でその効果を見現化してきました。スポーツの専門家ではない演者が実践してきた筋力トレーニングなどを紹介し、老化を楽しむ、いわゆる、「エンジョイ・エイジング」を実践していただくための参考になるような話をする予定です。

小瀬村 誠治 (こせむら せいじ) 法学部 教授

慶應義塾大学法学部 教授

専門領域:天然物化学、化学生態学

所属学会:日本化学会、植物化学調節学会

その他関連活動:2008年 関東マスターズ陸上競技選手権 M50:100m(4位)、200m(5位)

2010年 神奈川マスターズ陸上競技選手権 M50:100m(5位)、200m(4位)

2011年 関東マスターズ陸上競技選手権 M55:100m(3位)、200m(2位)

読売新聞横浜支局長 長原 敏夫

慶應義塾大学と読売新聞横浜支局との市民講座が、今年もスタートします。テーマは昨年に引き続き「スポーツ」です。競技スポーツからレクリエーションまで、幅広い視野と深い視点からスポーツを語り、日常生活での活用方法などを探ります。昨年は、日によっては定員を大きく上回る受講希望が舞い込むなど、大きな反響を呼んだ講座です。今年も、身近なスポーツというテーマを通じて、大学に集積された<知>の世界を楽しんでいただきたいと思います。



体育研究所 教授 佐々木 玲子

現代のスポーツは、オリンピック種目のような競技性の高いものから気楽に楽しめるものまで幅広い様式を待っています。また、それらに対して「する」「みる」「支える(育てる)」などいくつかのアプローチがあり、それぞれに楽しむことができます。本講座では、スポーツの新たな見方や面白さの視点のいくつかを取り上げ話題を提供したいと思います。スポーツに思い描くこれまでのイメージや関わり方をさらに広げ、深めていけるように一緒に考えていただければ幸いです。

